

児童・生徒の現状・課題

・興味のあることや楽しそうだと感じたことには、意欲的に取り組むが、難しそうだと感じると消極的になってしまったり、できないことがあると諦めてしまったりする。

・与えられた課題に対して一生懸命に取り組もうとするが、自分の理解度や進捗状況を把握したり、自らの課題に対してどのような手立てで解決したらよいかを考えたりするのが難しい児童が多い。

学び続ける力を育むための重点目標

○子供たち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
① 自分から進んで計画をたてて、学習している。	88.7	90.0	82.5
② 授業のはじめにはこれまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	85.1	86.0	82.5

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
① 授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	69.6	73.0	66.7
② 授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	95.7	96.0	95.8

具体的な手だて①

単元の初めには、学習内容や学習計画を示し、児童自身に見通しをもたせる。

具体的な手だて②

毎時間の授業の中では、めあてを明確に提示したり、振り返りの時間を設けたりする。児童自らが、理解度や進捗状況を確認したり、それらを教師が把握して授業作りに役立てたりすることができるようにする。

具体的な手だて③

各単元の学習の中で、活動形態(グループや個別など)や学習の場、課題などを、学習内容や目的に沿って、児童が自ら選択できる場面を設けていく。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・教員全体の Classroom や研究の Classroom を活用し、日々の実践や意見、相談を行いやすい環境を整える。
- ・管理職の授業観察や研修等の研究授業の指導案を他教員にも配布し、授業を互いに見合う機会を作る。
- ・年間11回の OJT や校内研究の中で、実践や相談し合える時間を設け、情報共有をしていく。

総括(7月)

全国学力学習状況調査の結果は、本年度も算数の数値がやや低く、日頃の授業の更なる工夫が必要だということが分かった。児童の現状や課題を鑑みると、それは、授業において児童自身に目標や目的をもたせる機会が少なかったり、同じ授業を実践していたとしても、「(ねらいや目的に合わせて)児童に自ら選択させる」という意識が低かったりしたことに課題があるからではないかと考えた。そこで、日常的に「選択」を意識して授業の計画を立て、実際に児童に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手立てを教員が着実に準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員は、授業後に振り返りの場を設定し、児童も自分の学習の様子を振り返ることが定着していて、授業改革は推進されている。一方で、今後は、授業の中で児童が学び方を選択できる単元や内容を更に模索していく必要がある。児童は、学習計画を立てたり、学習方法を工夫したりすることができていると回答したのが本年度も8割を超え、高い水準を保つことができている。今後は、児童に見通しをもたせる工夫をしたり、振り返りの質を更に高めたりすることを目標として、学校全体で取り組んでいく。